

JFEシビルのシステム建築協力会

全国大会に200人参加

藤井社長「フォローの風つかみ次の飛躍へ」

JFEシビル(社長・藤井善英氏)が展開するシステム建築商品「メタルビル」の施工店などで構成される「JFEシステム建築協力会」の全国大会が4日夕、石川県金沢市のホテル日航金沢で開催された。大会には藤井社長を始め会員など約200人が出席した。



挨拶に立った藤井社長

長〓写真⑤は「当社は非常に好調でとりわけシステム建築と大型物流倉庫が非常に堅調だ。最近も建坪5万坪、鋼材重量3万4千5千トンの大型倉庫を受注した。今年度から始動した新中計で売上高1千億円を掲げているが今年度の受注見込みは既に900億円超とめどが立ってきた。そのカギはシステム建築で皆さんの協力を得ながら製品開発も進めたい。建設需要はeコマースの流れが強くなり冷凍冷蔵庫やダークス

トップの増加が見込まれる。熟練工などの不足が深刻化する中システム化の流れも非常に大きな力で、スーパーゼネコンなどから手伝わしてほしいという話が複数来ている。製造系の引き合いも増えており、フォローウインドをしっかりとつかみ次の飛躍に繋げたい」と述べた。

また、来賓で挨拶した村上陽一JFEスチール北陸支社長〓写真⑥は「北陸新幹線が今年3月に開通したが、北陸の地の粘り強い努力で開通に至った。ただ、敦賀までの延伸などは先で北陸新幹線はまだ発展途上にある。北陸地区の経済規模は全国で2%程度で鉄鋼需要も同水準だが災害も少なく発展の可能性を秘めている。新幹線開業で企業の進出などの動きが見られ、規模拡大を期待したい」と述べた。

協力会には昨年度新たに28社が加入し会員数は242社。大会では実績表彰や講演会も実施した。